

令和7年10月10日

大宮呉竹医療専門学校
校長 齊藤 秀樹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 河原 保裕

学校関係者評価委員会報告

令和7年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告する。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 河原 保裕 （公益社団法人日本鍼灸師会業務執行理事）
- ② 長嶺 芳文 （公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会会長）
- ③ 山本 光彦 （公益社団法人埼玉県柔道整復師専務理事）
- ④ 尾花 正貴 （在校生保護者）
- ⑤ 山岸 克也 （同窓会組織呉竹会前会長・第4期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和7年9月20日（会場：大宮呉竹医療専門学校9階教室）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

I 重点目標について

重点目標は一部更新され、昨年度に引き続き、具体的目標値が設定されていることや、鍼灸科・鍼灸マッサージ科の取り組みには相互授業参観や、主体的参加型授業を組み込むことが加えられたことを確認した。各目標の達成に向けた活動を確実に進められるとともに、入学者及び在籍者数を適正に確保されることを期待する。

各評価項目について

1. 教育理念・目的・育成人材像

理念・目的・育成人材像の設置、関連業界等の人材ニーズに適合、特色ある教育活動、将来構想の設置について確認した。

理念等の浸透度を高める活動を令和5年度の下半期より実施していることを確認したが、全国専門学校卒業生共同調査の結果からは成果を確認できなかった。理念等との関係や科目の位置付けについては、全ての在校生に対して授業開始時に説明するなどの対策を徹底されたい。

2. 学校運営

理念等に沿った運営方針の設置、理念等達成のための事業計画の設置、適切な組織運営、学校運営組織の整備、人事・給与制度の整備、意思決定システムの整備、情報システム化による業務の効率化の取組について確認した。

- ① 令和8年度より、人事評価の結果に基づいて、昇任、昇給の評価を実施するため、制度の説明等に関する研修を実施したことを確認した。
- ② 学校単体の予算明細書の作成していることを確認した。

3. 教育活動

理念等に沿った教育課程の編成方針・実施方針の設置、学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルの明示、教育目的・目標に沿った教育課程の編成、教育課程編成委員会の設置、キャリア教育の実施、授業評価を実施、成績評価・修了認定基準を明確化と適切な運用、作品及び技術等の発表における成果の把握、目標とする資格・免許の教育課程上の位置づけ、資格・免許取得の指導体制、資格・要件を備えた教員の確保、教員の資質向上への取組み、資格・要件を備えた教員の確保等について確認した。

- ① 卒業時の調査において就職支援に対する納得感が十分ではない学科があったことなどの課題の改善に取り組んでいることを確認した。

- ② 授業評価については、振り返りシートの作成や上長による授業見学等によって、改善状況を確認していることを確認した。
- ③ 学校の教育の質については、実際職場に出てわかることもあるので、卒業後一定期間をおいてから実施する調査についても検討されたい。
- ④ 卒業生調査等については今後も続け、経過をしっかりと見て課題を解決されることを望む。
- ⑤ 授業については、アクティブラーニングや探求学習をさらに深められることを望む。
- ⑥ 若い方は集中力を保てない方が一定数おられるので、そのことを念頭においたカリキュラムやコマシラバスの編成についても検討されたい。
- ⑦ 一部の講師については今回も厳しい意見が学生から出ているので改善の努力は続けられたい。

4. 学修成果

就職率向上の取組、資格合格率向上の取組、卒業生の社会的評価の把握について、概ね適切に実施されていることを確認した。

- ① 12月時点の希望者就職率は目標の77.3%を上回る81.3%となったが、社会人学生に対する支援策を強化していることを確認した。
- ② 本校の国家試験合格率は全国水準を上回るものの、より高い目標に向けて取り組まれていることを確認した。
- ③ 卒業生の社会的評価の把握に務めているものの情報量が少ないことについては、業団等の会報や通知、関連雑誌などを教職員で回覧して補う方針としていることを確認した。

5. 学生支援

就職等進路支援組織体制の整備、退学率低減の取組、学生相談体制の整備、留学生相談体制の整備、経済的支援体制の整備、健康管理体制の整備、学生寮等生活環境支援体制の整備、課外活動支援体制の整備、保護者との連携体制の構築状況、卒業生支援体制の整備、産学連携による卒業後再教育プログラムの開発・実施状況、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備について確認した。

- ① 企業説明会等の開催・運営を担う企業との業務委託契約等を結んで、新たな参加企業を増やすなど、就職支援の充実を図っていることを確認した。
- ② 退学率は増加傾向にあったが、次のような方策を講じ、徐々に効果が表れてきていることを確認した。若い学生に対しては、入学当初の対応が大事と思われるので、今後も状況に応じた対応を検討することを期待する。
 - ・入学前のミスマッチを防ぐための面談や等の様々な取り組み。
 - ・多様なグループ作りや同好会活動の推奨による仲間づくり。

- ・1年次の小テスト等による学力不振を防ぐ取り組み。
 - ・欠席が増えてきた時点で面談を行う取り組み。
- ③ 保護者との連携を促進するため、個別面談の記録に関する保存書式を見直したことを確認した。
 - ④ イベントの企画については翌年度事業計画検討時に決定することによって、卒業生への周知を充実させ、公開講座、卒業生の集い、本学園の医学会などに、より多くの参加者を募っていく方針を立てていることを確認した。
 - ⑤ 中高年学生の就職支援については、企業等との面談を通じて、中高年学生の採用に積極的な企業を把握し、紹介強化を図る方針を確認した。
 - ⑥ キャリア教育については、業団との連携、病院との連携、多職種連携を意識したものを積極的に開催されることを期待する。
 - ⑦ 在学中に様々なプロ（資格保有者）と接触することによって、授業では味わうことのできない実体験を学生に提供する機会をより一層設けられることを期待する。

6. 教育環境

教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等の整備、学外実習・インターンシップ・海外研修等の実施体制の整備、防災に対する組織体制の整備と適切な運用、学内における安全管理体制の整備と適切な運用について確認した。

- ① 学外臨床実習先の充実を図るため、引き続き、病院、介護施設の実習先の拡充を進めていることを確認した。
- ② 教室や更衣室のロッカー固定については、新学科設置後に対応する方針としていることを確認した。

7. 学生の募集と受入れ

高等学校等接続教育機関に対する情報提供、学生募集の実施状況、入学選考基準の明確化と適切な運用、入学選考に関する実績の把握と授業改善等への活用、経費内容に対応した学納金算定、入学辞退者に対する授業料等の適正な取扱について確認した。概ね適切に自己評価されている。

令和7年度の入学者充足率は前年度よりも高まったが、充足率の低い学科があることから、外部調査機関の協力により実施しているアンケート調査を引き続き行い、結果に基づく改善活動を行われる方針を確認した。

8. 財 務

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定性、主要な財務数値に関する財務分析の実施、教育目標との整合性のある単年度予算及び中期計画の策定、予算及び計画に基づいた執行管理の実施、私立学校法及び寄附行為に基づいた監査の実施、財務情報公開体制の

整備と運用について確認した結果、自己評価はおおむね適切に実施されていた。

9. 法令等の遵守

法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な学校運営、個人情報保護に関する対策の実施、自己評価の実施体制の整備と評価の実施、自己評価結果の公表、学校関係者評価実施体制の整備と評価の実施、教育情報に関する情報公開の実施について確認した結果、概ね適切に自己評価されていた。

10. 社会貢献・地域貢献

学校教育資源活用による社会・地域貢献の実施状況、国際交流の取組、学生ボランティア活動の奨励と具体的活動支援の実施について確認した結果、概ね適切に自己評価されていた。

学校の教育資源を活用した公開講座等の計画については、事業計画立案時に決定し、関連団体や卒業生の周知を強化されることを確認した。

以上